

「町ぐるみん白岡」だより

子どもと読書

子どもにどんな本を与えようかと頭を悩ませている方が多いのではないのでしょうか。読書は、子どもたちの心の発達に大きな影響を与えるといわれています。

多くの方が様々な書籍を薦めたり、読書活動が推進されたりしています。



図書館でのお話会の様子

今後数回にわたり、様々な角度から「子どもと読書」について考えてみたいと思います。

今回は、図書館の読み聞かせボランティアの皆さんに聞きました。

読み聞かせは子どもは好き!

「読み聞かせ」というと難しい特別なことのように感じる人もいるかも知れません。でも、人前では読んだことはないけれど、家ではよく我が子に本を読んでいる、という方はきっと大勢いることでしょう。目の前にいる誰かのために、生の声で心を込めて本を読むのが「読み聞かせ」です。決して難しいことではありません。

近年、子どもたちの「聞く力」が弱くなっているといわれます。「読み聞かせ」をたくさん経験している子どもは、本好きになることはもちろん、「人の話を聞く」「聞いてイメージする」力が増します。相手に伝わるように話したり、相手の気持ちを考えたりすることができるようになるのです。

もしも、お母さんやお父さん、身近な大人に、全く本を読んでもらえない子どもがいたとしたら、その子は、想像力が豊かで、お話の世界を一番楽しめる時期に、本

| | | | |
|-----------------------------|-----------------|----------------------|-----------|
| 幼児向け | 『ポートにのって』 | とよたかずひこ 著 | アリス館 |
| | 『サラダがけいすき』 | 梅津ちお作・絵 | ひさかたチャイルド |
| 低学年向け | 『ぞうくんのさんぽ』 | なかのひろたか作・絵 | 福音館書店 |
| | 『いちごです』 | 川端 誠 作 | 文化出版局 |
| 中学年向け | 『はるですよふくろうおばさん』 | 長 新太 著 | 講談社 |
| | 『牛の春』 | 五味太郎 作 | 偕成社 |
| 高学年向け | 『さくら』 | 長谷川真子 文 矢間芳子 絵・構成 | 福音館書店 |
| | 『あさの絵本』 | 谷川俊太郎 文 吉村邦敏 写真 | アリス館 |
| 高学年向け | 『ともだちや』 | 内田麟太郎 作 降矢なな 絵 | 偕成社 |
| | 『ぼくだけのこと』 | 森 絵都 作 スギヤマカナヲ 絵 | 偕成社 |
| | 『てん』 | ピーター・レイノルズ 作 谷川俊太郎 訳 | あすなろ書房 |
| 『とんことり』 筒井頼子 作 林 明子 絵 福音館書店 | | | |

読み聞かせボランティアが選ぶ「春のおすすめ本」

の楽しさを知るチャンスをもたらさないことになってしまいます。

「読み聞かせ」は、本を通じた親子のコミュニケーションです。親が本を読み、子どもが感じたことを言葉にする。親は、子どもの言葉に耳を傾け、丁寧に子どもへ返す。こうした楽しい経験は、豊かな心を育て、子ども時代の良い思い出となることでしょう。

親子でゆったりと「読み聞かせ」を楽しめる時間には限りがあります。本を仲立ちにして、親子の絆を深めてみてはいかがでしょうか。

なかま

白岡市スポーツ少年団

スポーツ少年団は、「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを!」「スポーツを通して青少年の心と体を育てる組織を地域社会の中に」という理念のもとに活動しています。スポーツが大好きな子どもたちと、子どもが大好きな大人が一緒になってスポーツを楽しんでいます。



毎年 10 月に行っている、親子レクリエーション大会の様子

白岡市スポーツ少年団では、野球・ソフトボール・バレーボール・サッカー・空手道・バドミントン・ミニバス等の種目別練習の他、全員参加による「親子レクリエーション大会」等を実施しています。



今回から登場の「子育てカフェ」。子育てにチョット疲れたとか、悩んでいるお母さんに読んで欲しいコーナーです。市内の家庭教育アドバイザーの皆さんが相談に乗りますよ。

Q 少し引込み思案の長女。入学する学校に馴染めるか心配です。

新入学おめでとうございます。学校では、教科学習が加わり生活環境も変化します。最初は、どの子も緊張や不安で一杯です。友達の輪になかなか入っていけない子もいますが、子どもは、友達との遊んでいる様子をよく見て、その集団に入れるかどうか自分の気持ち確かめてから入っていくのです。その時間が長いか短いかだけの差です。色々な友達との出会いが、子どもの成長を後押ししてくれることでしょう。

ところで、「もう一年生なんだから自分のことは自分でしなさい」なんて言っていますか。自立を促す親心はよくわかりますが、あまり性急に突き放すのは考えもの。学校生活に慣れるまで、子どもと一緒に持物の準備をするなど、子どもの不安な気持ちを和らげるよ

うにすることも忘れずに。任せるのは、子どもが自分のペースを掴んでからでも遅くありません。お母さんが、いつでも見守っている気持ちを子どもに伝えることで、子どもは安心して色々なことにチャレンジするようになります。

お母さん、子どももの「育つ力」を信じましょう。



Q 3歳の長男の「ダダこね」が激しく精神的に疲れてしまいます。

ダダこねは、子どもの自立には必要な過程です。それまでの「精神的赤ちゃん状態」から、「自分」を作り上げるために、ママを相手にダダをこねて、自立に必要な自己主張力を身につけていくのです。ダダこねには、別の要素もあります。それは、自立に向かう不安です。自立期を迎えた子どもの中には、「カッコイイお兄さんになるんだ!」という気持ちと、「ママと離れるのは不安だから、赤ちゃんのままでいたい」という気持ち

が同時存在しています。自立期の子どもの心は、この二つの気持ちの間で大きく揺れているのです。それが、自立期特有のイライラや扱いにくさの正体だといえます。

昭和七年、篠津小学校の六年生になった私が初めて参列した筑後様祭り、世話役の代表の方から次のようなお話を聞きました。

「皆さんが、今、腰をおろしているこの丘は、昔、郷倉と言った大きな倉庫がありました。郷倉というのは、江戸時代、不作の年や飢饉の年に、村人が食糧がなくて、飢えることがないように、前もって米や麦、或は芋類などを貯蔵した倉庫で、現在の『非常用食糧等の貯蔵庫』のようなものです。白石公は大きくなって、しっかりした倉庫を建てたようです。

ちくごさま

筑後様まつり(下) 市文化財保護委員長 石川 正美

これも村民を大事にした白石公の気持の現われでしょう」

こんなお話を聞いたあと「紅白の饅頭」をいただいて学校に帰りました。随分、昔のことですが、今でも筑後様まつりに招かれた当時を思うとき、白石公の偉大さと代々の野牛村の指導者の立派さが思い出されて感無量です。

*筑後様とは筑後守のことで白石公が正徳元年(一七一) 従五位下筑後守に叙されたので、村人達は筑後様と呼んだのでしよう。

昭和七年、篠津小学校の六年生になった私が初めて参列した筑後様祭り、世話役の代表の方から次のようなお話を聞きました。

「皆さんが、今、腰をおろしているこの丘は、昔、郷倉と言った大きな倉庫がありました。郷倉というのは、江戸時代、不作の年や飢饉の年に、村人が食糧がなくて、飢えることがないように、前もって米や麦、或は芋類などを貯蔵した倉庫で、現在の『非常用食糧等の貯蔵庫』のようなものです。白石公は大きくなって、しっかりした倉庫を建てたようです。

ちくごさま

筑後様まつり(下) 市文化財保護委員長 石川 正美

これも村民を大事にした白石公の気持の現われでしょう」

こんなお話を聞いたあと「紅白の饅頭」をいただいて学校に帰りました。随分、昔のことですが、今でも筑後様まつりに招かれた当時を思うとき、白石公の偉大さと代々の野牛村の指導者の立派さが思い出されて感無量です。

*筑後様とは筑後守のことで白石公が正徳元年(一七一) 従五位下筑後守に叙されたので、村人達は筑後様と呼んだのでしよう。

「白岡市生涯学習推進課」

ただ、頭で分かっている、実際に子どもは、大変な重労働。一人で抱え込まないで、周囲の人に受け止めてもらったり、慰めてもらったりすることも必要ですね。

押しつぶされてしまう前に、気分転換の工夫を色々試してみるとよいでしょう。「育児休業日を作って、その日はパパやおばあちゃんに子どもをまかせ、ママは思いっきり遊ぶ」というのもいいですね。

この程出された、埼玉県生涯学習審議会の建議『みんなのできる生涯学習社会を目指して』ネットワークの新たな試み』の中で、特色ある五つの取組みの一つに選ばれました。県のホームページでご確認ください。

また、26年12月には、文部科学省の家庭教育支援チームへの登録が承認されました。

「町ぐるみんな白岡」の活動に対する一層のご支援をお願いします。

